

進路指導部だより

令和7年7月17日 No.3

東京都立板橋特別支援学校長

山岸 直人

進路指導部

日頃より本校の教育活動に御理解、御協力を賜りありがとうございます。

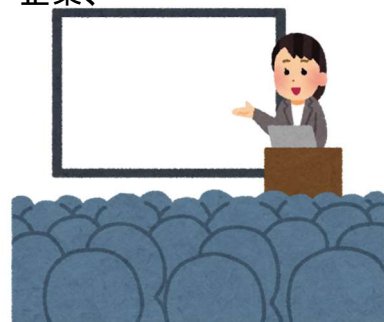
1学期も明日が最後の登校日となり、夏季休業を迎えます。

実習等、進路指導への御協力ありがとうございました。

本号では7月4日（金）に行われたPTA進路対策部会主催「卒業生の保護者との進路懇談会」の内容について御紹介いたします。講師としてお話しいただいたのは、卒業後1～2年目を迎える生活介護、就労継続支援B型、企業、就労移行支援に通われている卒業生の保護者4名です。

ぜひ、参考にさせていただき、今後の進路選択や卒業後の生活に向けて、御家庭で取り組んでいただければと思います。

お話しいただいた保護者の皆様、企画運営していただいたPTA進路対策部会の皆様、ありがとうございました。



<生活介護について お話のポイント>

- ・実習ではB型も経験したが、実習先からの評価も鑑みて生活介護を選択した。
- ・送迎もあり、在学中に比べ運動量が減ってしまう。在学中より早く家に帰ってくるようになった。
- ・事業所を3か所ほど見学したが、保護者が行ってほしいと思ったところと、本人が選択した事業所は違った。本人が行きたいところに決めた。
- ・現在、通所している事業所の活動はゆったりとしているので、本人の気持ちにも余裕ができた。ショートステイの利用も考えられるようになった。

<就労継続支援B型について お話のポイント>

- ・学校の様子から担任とも相談し、B型を選んだ。
- ・見学の際は、支援員さんの言葉掛けの仕方や利用者さんの様子を見て考えた。
- ・選んだ決め手は、見学をしたときに自分の子どもが（そこで）働いている姿が重なったかどうか。（想像できた）
- ・実習は長くても2週間だが、実際の利用となるとずっと続く。年間を通して通えるか見極めが大切になる。



<企業について お話のポイント>

- ・入学時から企業を希望し、1年は製造、2年は小売りの仕事で実習を行った。
- ・実際に就労してからも円滑ではなく、行き渋りや欠勤等もあった。職場の方や学校と連携し持ち直してきた。
- ・学校とは違い、会社は厳しい。本人も急に切り替えることは難しい様子だった。
- ・人とかかわる機会が減り、本人はさみしそうな様子が見られた。最近は、職場の方とコミュニケーションをとれるようになってきている。

<就労移行について お話のポイント>

- ・2年時に企業実習に行ったがうまくいかなかったこともあり、就労移行を希望した。
- ・行かせたいと思っていた就労移行が閉鎖となってしまったこともあり、現在、通所しているところを選択した。
- ・仕事や作業も多く忙しい様子。企業就労に向けた実習も始まってきている。
- ・なるべく休まないように、と事業所からも言われた。
- ・折り合いをつける力（トラブル等があったときに、相手を認めて強調する力）を身につけることが大切だと、事業所の所長から伝えられた。

<在校生の保護者→卒業生の保護者へ 質疑応答>

- ・実習で厳しい評価を受けた、とあったが具体的にはどのような内容か。
→評価表に、集中力が途切れると書かれた。
休憩時間に寝ていたことを指摘された。
- 実習の途中で（終わる時間前に）帰宅になることもあった。



<卒業後の生活を見据えて>

- ・体力がとても大切。今からでも運動や散歩など習慣付けるとよい。
- ・一人で行動できる範囲を広げておく。
- ・一人で家の鍵を開け、留守番をできる力が大切。特にB型や生活介護では保護者よりも1～2時間程度、家に早く帰ってくることもある。
- ・本人の自己決定を大切にする。明確に言葉が出なくとも、「本人が嫌がった」など本人の反応も大切にしたい。

進路先の決定にあたっては、実習先からの評価も受け止めながら、本人の意思を尊重して決定していった様子がうかがい知れました。また、福祉に関しては1, 2年のうちから見学等を積み重ねておく大切さについてお話しいただきました。ぜひ御参考にしていただければと思います。